



米国サンディエゴで開催されたアメリカ移植学会への参加、発表をしてきました。  
コロナ感染への対応が十分対応される中、通常の対面での現地開催がなされました。

米国における感染対策は、屋外ではマスクを外し屋内では着用という、比較的分かりやすい環境下での対策がなされており、病院内では日本と同様にマスク着用の義務と面会制限を行う事で感染リスクの軽減に努めています。

特に自身に対応させて頂いている移植患者さんは内服薬（免疫抑制剤）の関係で、他者よりも感染罹患のリスクが非常に高く、何倍もの感染リスク軽減が求められます。その為、移植医療を専門とする従事者はある意味感染対策への専門グループなのかもしれません。これからも町の皆さんの感染対策、健康管理に努めさせていただきます。

発表内容は腎臓移植患者さんにおける拒絶反応の一早い検出を目的とした研究手法に関する報告です。東京医大での移植患者数は年間 20-30 と日本でも TOP10 に入ります。一方でドナー提供の問題もあり、移植待機患者さんが手術を受けられるまでに、数年かかる事もあります。

その為、脳死を含めた臓器提供者さんやそのご家族のお気持ちや意思に応える医療提供はとても重要であり重大な責務です。

今回の学会参加・発表を通じて、改めて移植医療、外科手術に従事できる事を幸せに思っていますし、町の皆さんに先進医療で得た知識技術を還元できる医療環境を職員とつくっていけるよう努めて参ります。

2023 年 6 月